

中川村 新たな学校づくりプロジェクト その4

新たな学校の
コンセプト(構想)

学校教育が目指す子どもの姿
「自ら考え、判断し、行動して、人生を開拓する力を育む」

令和13年度の開校を予定している小中学校を統合した義務教育学校について、基本計画策定に向けた検討を行う第3回中川村新たな学校づくり委員会を6月19日(木)に開催しました。

教育委員会総務学校係
TEL 88-11005

第3回学校づくり
委員会
記事ID:11893



詳しくは、村公式ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



委員会の様子

委員会では、5月17日(土)に実施したシンポジウムのまとめを中心に行いました。
今年度から新たに参加する委員もいることから、令和6年度の検討内容と令和7年度の推進計画についても再度確認を行いました。
シンポジウムでは、「ことばで考えてきた校舎を形にしよう」をテーマにワークショップを行い、下記のようにまとめられ、内容について検討を行いました。

シンポジウムの まとめ

シンポジウムのワークショップを運営していただいた田中研究室の学生のみなさんからまとめを発表していただきました。グループ共通で求められた空間・機能として、①学校施設と地域交流施設が交わる空間、②広い空間と個人空間の混在→静かに集中できる空間の確保、③自然とつながりが持てる学校空間の3点が示されました。

建築空間に特化して、グループ共通で求められた空間、機能

①学校施設と地域交流施設が交わる空間

その機能としては、特にランチルームが求められた。

→学校施設と地域の間領域となる機能を学校敷地の周辺部に実現できると好ましい。そのうえで、自然や遊びの施設を許容できる空間があると良い。
共有空間に関しては、厳密に規定せず、村民や子どもたちが柔軟に活用方針を決めていけることも重要である。

②広い空間と個人空間の混在

→ 静かに集中できる空間の確保

「ごちゃまぜ学び=交流にあふれ、賑わいがある状態」だけではなく、**静かに自分の学習に没頭できる空間**を内包している状態を指す、ということが明らかになった。

→ごちゃまぜだけではなく、探求的側面も見出すことができる。対象は子どもだけでなく、**先生にとっても重要な休息場**となる可能性が高い。

③自然とつながりを持てる学校空間

どの班からも共通して、中川村の自然をデザイン計画に取り込みたいという意見が見られた。

→これは、配置計画への応用が考えられる。具体的な案としては「校舎の外なのか、中なのかという曖昧な空間」、「学校のボリュームでオープンスペースを挟んだ空間」、「生徒のエリアと畑のエリアの間に縁側・屋外教室を配置したシームレスな空間」の構成が見られた。

田中研究室作成資料を一部抜粋

フリースクール利用料などの補助金制度を始めます

教育委員会では、義務教育段階の不登校児童生徒が通う民間のフリースクールの利用料と通所費を補助します。

【補助金額】 利用料：1日あたり500円(上限額1万円/月) 通所費：1/2以内(上限額7千円/月)

補助金の交付申請を希望される方は、教育委員会総務学校係へお問い合わせください。

※広報なかかわ6月号の「おしらせ」では、在籍校で「出席扱い」となっていることを要件としていましたが、長野県の信州型フリースクール認証制度などを参考に検討を重ね、子どもたちのより多くの居場所が確保できるよう「出席扱い」を要件から除外しました。